

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大 学 名	新潟大学
整 理 番 号	B3
事 業 名	メコン諸国と連携した地域協働・ドミトリー型融合教育による理工系人材育成

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、学年縦断・分野横断・多国籍学生チームによるドミトリー型融合教育による地域企業協働のグループワークを主体とする質保証の教育プログラムを通して、メコン地域の課題解決能力と融合型視点を持った理工系グローバルリーダー人材の育成を目指し実施された事業である。 本事業展開では、短期・中期及び長期の多様な双方向学生交流プログラムを実施し、学部では学年縦断・分野横断・多国籍のチーム、大学院では研究テーマに密接な特定研究分野を設定したチームを編成し、国際テクノロジーグループワーク(GW)インターンシップと国際マーケット GW インターンシップを根幹とした共修型の課題解決型 GW 活動を行った。地域の特性を活かした学生交流プログラムの実施に加えて、コロナ禍においては、COIL の手法を用いた同期型の GW を実施し、相手大学と連携しながら教育の質の維持・向上に努めた。また、事前学習の一環として受入学生に対してオンデマンド配信を実施、事前学習・事後学習において社会人基礎力チェックリストを活用し、留学中の自己の目標設定と達成状況の確認を実施するといった、十分な事前・事後の学習機会を設けている点は評価できる。インターンシップ受入企業との意見交換を行い、大学と企業との連携強化を進めながら、企業と連携したインターンシップの機会提供を派遣・受入学生に対して積極的に行っており、キャリア形成に必要な支援が十分に行われている。 事業運営においては、学外技術者らで構成される「国際 100 人材ネットワーク」による、GW インターンシップ等プログラム内容に対する助言や外部評価委員による評価を受けて改善を図り、プログラムの質保証を行っている点が評価できる。 一方、学生交流プログラムにおいては短期の派遣・受入が中心となっているため、今後、中期・長期の派遣・受入学生数の更なる増加に向けた方策の検討が求められる。また、今後の展開としては、4ヶ国の相手大学とバランスのよい連携が可能になってきたことを活かし、個別の大学との連携のみならずこれまで構築してきたネットワークを活用した更なる連携の在り方を検討し、より充実した交流が実現されることを期待したい。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	